

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		12/27~1/6	1/6~1/15	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.026	0.042
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.015	0.017
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.014
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.015	0.018
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.011	0.019
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.037	0.014
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.019	0.022
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.032	0.028

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		12/27~1/6	1/6~1/15	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.013	不検出
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.008	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第125回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(2019年12月27日~2020年1月15日)

今回の大気中の放射能測定結果は、セシウム137濃度が0.017mBq/m<sup>3</sup>程度と、事故による過剰被ばくを考えなくて良い状態です。最近、原発事故現場における汚染水処理でトリチウムなどの放射性物質は、化学処理をして除去されていますが、トリチウムは、ほとんどがトリチウム水の形で存在するので除去が困難です。しかし、トリチウムは、水素の放射性同位体でベータ崩壊してヘリウムに変換しますが、この際に放出されるベータ線のエネルギーは極めて低く、外部被ばくおよび内部被ばくともに健康影響は、放射性セシウムの1/300~1/1,000と桁違いに小さいことがわかっています。